

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 17

2008年8月発行

みんなで楽しくお買い物&クッキング

2008年7月12日(土)11:00~15:00

大阪市立旭区民センター 調理室

協力：千里金蘭大学社会福祉学部人間社会学科2年生

〈大阪ガス'小さな灯'運動助成事業〉

参加者 44名

子ども13名(障害児とその兄弟姉妹)

ボランティア29名(大学生19名、専門学校生2名、高校生3名、
社会人5名)、 スタッフ2名

今回のレクリエーションイベントは、障害をもつ子どもとその兄弟姉妹に余暇の機会を提供すると同時に、社会生活に求められるさまざまな体験の機会を提供することを目的として開催しました。学校教育で取り組む「調理実習」とは異なり、買い物-調理-食事という一連の日常生活の行動を子どものペースでできるようにプログラムを工夫しました。子どもの自立支援の入り口の階段として、スーパーで食材を選んで買い物をするという体験、包丁や火を使って調理に取り組む体験、みんなで力を合わせながら調理や食事を楽しむ体験の機会をつくりました。

昨年催した同様の目的の活動では、「生まれてから一度も親から包丁を持たせてもらったことのない」という視覚障害の学生の参加があり、その時は同じグループの料理の好きな子どもが学生にあれこれと教えていました。障害の有無にかかわらず、学生ボランティアもまた、様々な理由で経験の幅に大小があるのだとすれば、子どもと学生ボランティアと一緒に戸惑いながらも、互いに支えあう機会になればとも考えました。

また、生徒学生の他に、専門職、地域住民など様々な方にボランティアとして協力いただくことにより、障害をもつ子どもの地域生活への理解をすすめ、サポーターとしての活動の場を提供していきたいと考えました。

イベントの内容は、千里金蘭大学社会福祉学部社会学科2年生の学生さん達が企画してくれました。ボランティアは9時半から集合し、打ち合わせと準備を行ないました。子どもたちがやってくると、保護者の方々から、お子さんの様子をうかがい、グループに分か

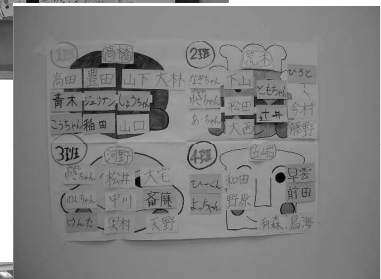
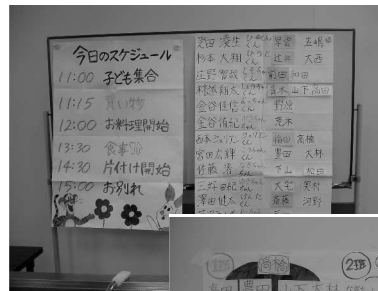
れて今日のスケジュールを説明しました。買い物にはカードを使い、調理手順は紙芝居を使って、言葉だけでは解りにくいお子さんのために様々な工夫をしました。グループ毎に買い物に行き、調理開始。メニューは、野菜たっぷりの「焼きそば」と「白玉団子入りフルーツポンチ」です。子どもたちは、ボランティアと一緒に、スーパーで商品を選んだり、野菜や肉を切ったり、白玉団子を丸めたりと、それぞれできる作業に取り組みました。おいしい昼食の出来上がり！ みんなで楽しい時間をつくることができました。

多くの学生及び社会人のボランティアに参加していただきました。振り返りタイムで感想を共有することができました。



<スケジュール>

- 9 : 30 ボランティア集合
打ち合わせ&準備
- 10 : 00 受付開始
保護者からの引継ぎ
- 11 : 00 子ども集合
自己紹介
子どもへのスケジュール説明
- 11 : 15 グループに分かれて
スーパーに買い物
- 12 : 00 グループ毎に調理
- 13 : 45 食事
手を洗って、みんなで「いただきます！」
保護者への子ども報告を作成
- 14 : 15 みんなで後片付け
- 14 : 55 保護者のお迎え
子どものようすを保護者に報告し
子どもとのお別れ
- 15 : 20 ボランティア振り返り
- 16 : 30 終了



<ボランティアの感想や報告から>

- ・ 初めての経験で戸惑ったことがたくさんあったけど、一緒にいるうちにいろんなことを学べたように思います。1人の子を担当させてもらうと、すごく責任も感じたけど、だんだんと分かってきて、最後は楽しく話せたと思います。
- ・ 初めはどうしようとか、どうなるんだろうとか、いろいろ考えていたけど、みんなで仲良くできて良かった。料理もおいしく、みんな楽しそうで本当に良かった。
- ・ 子どもたちと触れ合うボランティアに参加させてもらうのは初めてで、最初はなかなかどう会話を始めたらいいのかとか、少し行動もぎこちない部分が多かったと思います。でも、子どもたちや大学生の方と話しながら、協力しながら、料理できて本当に楽しかったです。

- ・ Aくんは、いつも（以前のイベントなど）より落ち着きがなかったように感じました。調理室が大勢の人だったからかなと思いました。それでもずっと笑顔でいられたので良かったのかなと思いました。
- ・ 久々の参加だったので、とても楽しかったです。子どもの楽しい笑顔を見て、私まで笑顔になり、元気をもらえました。本当に楽しかったです。
- ・ 最初はちゃんとできるかなとか大丈夫かなとか、とても不安でした。でも、Bくんと会って、コミュニケーションをとるにつれて仲良くなっていったので嬉しかったです。買い物も、一生懸命に食材を探してカゴに入れてくれたし、料理を作っている時に少し手伝ったら、「ありがとう」と言ってくれたのが一番心に残りました。
- ・ 料理を作るとき、とても集中していました。キャベツを力強く切っていました。白玉団子も力強くこねて、食べやすい大きさに丸めていました。食べるのも早く、お代わりをしていました。とってもかわいかったです。
- ・ 最初はホワイトボードに上手に電車の絵を描いていました。お買い物の時には、買い物のカートを押してくれていました。初めのうちは、いろんな所に行ってたけど、後半になると、ちくわやお肉を切ったりして積極的に取り組みました。焼きそばもフルーツポンチもたくさん食べてくれました。かなり絵を描くことが好きだということが伝わってきました。
- ・ とてもたくさんのお話をしてくれました。学校でのことや塾のこと。買い物に行った時、材料を探しに行ってくれて、料理をしている時も、自分からすすんで、上手に包丁を使ってキャベツを切ってくれたり、お肉を切ったり、焼きそばも混ぜてくれて、すごく一生懸命やってくれました。白玉団子を丸める時が一番楽しそうでした。フルーツポンチも2杯もお代わりをして、たくさん食べました。
- ・ 買い物も調理も段取りよく進めて、皆さんの担当しているお子さんをしっかり見ていたし、お子さんも楽しんで取り組めていて楽しかったです。
- ・ 皆、積極的に参加してくれて楽しかったです。思っていた以上に明るい子達だったし、面白い体験ができて良かったです。こっちの方が楽しんでいたのでないかと思いました。



＜保護者からのメッセージ＞

- ・ 「とても楽しかった」と本当に嬉しそうにしていて良かったです。お料理も自分で買い物から料理づくりまで体験できて、心に残る一日だったと思います。今日のできごとを絵日記に書くと言っています。
- ・ 出かけはあまり乗り気では無かったのですが、きっと楽しんでいくと信じていました。去

年のクッキング以来、家でもたまに洗い物をしてくれます。後片付けをしてこそクッキングだからいい体験だと思います。今回はエプロンの片付けも指導していただければと思います。日常、親は、子どもにやらせるより、自分がしてしまうほうが楽なことが多いので、根気よく丁寧に教えてやるということがなかなかできません。ボランティアさんだからこそ、ゆっくりじっくりサポートしてやらせて欲しいと思います。

- ・ 息子に聞くと、「楽しかったよ」「焼そば作った」「ちくわ、ハサミで(?)切った」「いっぱい食べたよ」と嬉しそうに思い出しながら話してくれました。ボランティアさんが困ったりされていないか心配でしたが、楽しい時間を過ごせて安心しました。「ありがとう」が言えたり、自分からすすんで手伝いができたりと、親としては嬉しい様子を聞いて、本当に参加させていただき感謝です。いきいき教室やディサービスでスタッフから対応の悩みなどを言われて不安になっていたのですが、少し気持ちが楽になりました。

<スタッフ振り返り>

子どもたちは、自分の居場所も含めて、自分のしたいことを自分で選びとりながら、その子らしく過ごしていました。しかし、食事をとる時だけは、それぞれに好きな活動をしていた子どもたちが自分のグループのテーブルの周りに腰をかけ、美味しそうに焼きそばを食べていました。室外で遊ぶことを選んでいた子どもが、調理に取り組んでいた子どもたちからメンバーの一員としてあたりまえに迎え入れられ、グループのみんなと一緒にくもくと食事をとっていたことが素敵でした。子どもには、いろんな子どもと共に過ごす力があるのだと思います。

一方、学生ボランティアは、調理の手順を説明する紙芝居を用いるなどの工夫を凝らしながら、全体のスケジュールにとらわれずに、子どものペースに付き合っていました。「子どもと過ごす時間を楽しむことができた！」という感想のように言い切れるのは、学生という立場ならではあって、子どもにとってそのようにかかわってくれる人がいるというのは、大切な体験であるように思います。今回の「楽しかった!」「美味しかった!」という体験をあたため、障害をもつ子どもとかかわる活動のきっかけにしていいただければと思います。

しかしながら、良くも悪くも、前回までのイベントにあった「ハプニング」を訴える者があまりみられませんでした。日常生活で経験される“普通の失敗”の範囲内で、子どもと学生ボランティアと一緒に戸惑いながらも小さな失敗を経験できる場があり、そのような経験をふまえて「もうやりたくない」「それでもやりたい」などと子どもが自分の思いを表現することのできるように支援していくことも“ほうぶ”の役割かもしれません。福祉、教育、看護、保育、医療などの対人援助にかかわる職業上の現場では、一切の失敗が許されない状況になりつつあるだけに、障害をもつ子どもにとってはそのことが一層必要なことのように思われます。

その大前提として、子どもにとっての自立の意味や、子どもとボランティアが対等にかかわることのできる場のあり方について、子ども・親・学生・ほうぶとの間で十分に理解し合うことが必要です。そして、想定されるような事故を未然に防ぐことは当然のこととして、子どもにとって“普通の失敗”を経験することの意味や、子どもとボランティアが目的に辿り着くまでに回り道することの意味をみんなで考え合える関係をつくることも今後の活動の課題であるように思われます。



保護者交流会「自立について考えよう」

2008年7月12日(土)11:00~15:00

大阪市立旭区民センター 集会室3

<大阪ガス'小さな灯運動助成事業>

参加者 障害児の保護者 10名
ボランティア4名(大学生)
スタッフ2名

障害児を育てている保護者の交流の場を提供するとともに、障害当事者の想いを聴くことで子どもの自立について考える機会とし、保護者のエンパワメントとネットワークづくりを図るために、子どものレクリエーションイベントと同時に開催しました。

昨年まで毎年、障害児の保護者交流会を開催し、保護者同士がセルフヘルプ機能をいかした意見交換を行ってきました。昨年度は、保護者の意見交換を一步進め、「自立」について考える機会を提供するために、さまざまな障害をもつ方々を講師にワークショップを開催しました。「子どもの将来について考えることができない、予想もつかない、今のことで精一杯」という保護者が多かったのですが、ワークショップにおいて障害当事者の方々の想いを聴くことができ、「自立」について考えるようになったと感想が寄せられました。

今回は、当事者との意見交換の時間を増やし、保護者の思いを深めることを目的としました。地域で暮らすことの大切さを考え、障害者のさまざまな暮らし方や働き方を知る機会とし、自立に向けた子育てについて考えるきっかけになればと考えています。

<プログラム>

- 11:10~ 講師の話(自己紹介・今の暮らしのようす・自分史の語りなど)
 - 富田都子さん(NPOちゅうぶスタッフ)
 - 鷺尾泰代さん(作業所みらいかん代表)
 - 三輪豪さん(会社員・(社福)地域ゆめの会メンバー)
 - 三ノ浦康介さん(種智院大学学生)
- 12:10~ 昼食を取りながら、参加者の自己紹介
 - グループA:小学校2年~5年までの保護者
 - グループB:小学校6年~高校1年までの保護者
- 12:40~ グループに分かれて意見交換①
- 13:30~ グループ報告①
- 13:40~ 休憩&グループ交代
- 13:45~ グループに分かれて意見交換②
- 14:25~ グループ報告②
- 14:35~ 講師から保護者へのメッセージ
- 15:00 アンケート記入後 終了

<内容>

それぞれの講師の方々が、子どものころから現在までの自分史や思いを語ってくださいました。親子の関係、先生や友達（仲間）との関わりと学校生活のようす、卒業後の暮らしなど、短い時間でしたが、ずっしりとした内容でした。

その後、グループ毎に、講師との意見交換を行いました。Aグループでは、子どもがまだ小さいので、今の育児についての親の思いや講師のお話の感想を述べ合い、高校入学について、自立生活やグループホームでの生活のようすについての質問がありました。保護者からは、「大人が子どものできることをさせていなかったり（してしまったり）、必要以上に手出しをしたりして、子どもの可能性を小さくしてしまっているのではないか」との振り返りや、「能力の問題ではなく、体験の少なさが子どもの人生の幅を狭めているのではないか」という気づきがありました。チャレンジすることや失敗の体験の大切さも話し合われました。Bグループでは、義務教育終了後の高校や大学の話、「自立」についての意見交換がありました。保護者の方から、「親の考えている『自立』と本人（障害当事者）の考えている『自立』に隔たりがあるのではないか、親は何か錯覚しているのではないか」という振り返りや、周囲の人との関係をどう作っていくかについての意見交換がありました。

<スタッフ振り返り>

自由な意見交換の中での気づきがあればと、あえてテーマを決めずにグループでの話し合いを行ないましたが、「自立」について、「自分一人で生きていけるようにする」ことにとらわれず、「周りを巻き込みながら、自分の人生を自分らしく生きていく」ことの大切さが伝わったのかどうか、当事者の方々の考える「自立」に気づいていただけたかどうか、課題も残りました。何をもちて自立と考えるか、保護者にとって大きな課題だと、改めて感じさせられました。

また、テーマの「自立」とは少し異なりますが、当事者の方の「差別をされながら生きてきた」という発言に、親は「差別」をどれだけ意識しているのかについても考えさせられました。「差別」に気づかず、あるいは甘受してしまっていることもあるのではないのでしょうか。以前、「大人は差別をするなど教えるけれど、特別扱いをしている」と娘の友達の言葉を聞いたことがあります。子どもは、特別扱いも差別であると気づいているのに、大人（親）はそれに気づいていない場合があるのかもしれない、障害にとらわれて、親が子どもをひとりの「人」として向き合っていないのかもしれないと、障害児の親である自身への自戒も込めて、考えさせられることの多い交流会でした。



<参加者の感想>

- ・ 講師の方のお話で、今まで本人ができることでも周りが手伝って本当はできていることなのに、それに気づかず、何年も経っていたように思います。今は、学校でも自分でできることはやっていくというふうにしたら、あれもできる・これもできるというのがたくさんあってビックリしました。毎日生活しているのに、最近気づくことが多いです。
- ・ あまり甘やかさないように、自分のことは自分でできるようにさせていかないと反省しました。また、グループホームについてもわかってよかった。
- ・ まだ子どもが小さいので、「自立」とはピンとみませんが、こういった形でも誰かのフォローの中生きていく必要。皆さんの話を聞いて、子どもの自立と大人の思っている自立の違いを感じました。
- ・ 今は小学校低学年なので、特に問題なく生活していますが、義務教育後の進路が気になります。最終的には自立して欲しいと思いますが、そのためにはいろんな体験をさせ、チャレンジさせてできることを増やしていきたい。講師の方みんな幸せそうで、ただ自立したら良いというのではなく、いかに本人が幸せに思え、自己選択できての自立だと思う。将来のことを考えると自立のために親がしなければならないことはたくさんあります。本人の意志を探りながら、必要以上に甘やかすことなく、様々な経験を積ませていかなくてはと思いました。特に印象に残ったことは、能力が無くてできないことが、実は、経験の不足でできないことなのだという事です。
- ・ 講師の方のお話を聞いていろいろな意見（気持ち）を持たれていて、娘もどんな気持ちをもって行動しているのか、改めて考えてみないといけないと思いました。
- ・ 前回より人数が少なくてたくさん聞けたと思いますが、それでも、時間が足りなかった。もっともっと聞きたかったです。

<ボランティアの感想>

- ・ このような話を聴く機会がめったになかったので、いい経験となった。障害者といっても、いろいろな障害をもった人がいて、自立といっても、それぞれの自立の仕方があった。悩みを相談できる場ができ、楽しく話ができよかったと思う。
- ・ 今までお母さんのお話を聞く機会はなかったし、学校に入るにも学校に頼みに行ったりなど、大変なことがたくさんあるのを知った。それから、学校卒業後のことや、作業所についてなど、普段なら知ることができないことをたくさん知ったので良かった。
- ・ 障害をもっている方と障害をもっている子どものおかあさん方の話を聞いて、自立についてやグループホーム、ヘルパー、制度のことなどを聞いて色々考えさせられました。子どもが考える自立と親が考える自立が違うということも聞けました。
- ・ 当事者と当事者の親との話し合い、交流というのは、初めての体験だったので、学ぶところは大きかったです。当事者の親の話を聞いて、過保護にしてはいけない、時間がタイトだったり、しんどかったりすると親がやってしまう（過保護にしてしまう）、その葛藤も知って、非常に勉強になりました。



子育て支援

★ あさひ子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」の活動より ★

～おはなしの会 開催～

2008年7月9日(木)11:00～15:00

旭区在宅サービスセンター 多目的室

参加者 親子7組

毎年恒例になった「まじょ魔女」さんのおはなし会。今回は、お天気も悪く、他の行事なども重なり、参加者が少なかったのですが、和気あいあいと親も子も楽しむことができました。きしゃぽっぽ運営スタッフも、一緒に盛り上がりました。



<参加者の感想>

- ・ 楽しかったです。子どもが飽きずに見れるお話し会でよかったです。
- ・ 大人も楽しめてよかったです。
- ・ 楽しかった。参加者が少なくてもったいないですね。
- ・ とても愉快で楽しかったです。ありがとうございます。来年も楽しみにしています。
- ・ 今回もとても楽しかったです。ちょっとひっこみじあんな所がある息子が大きな声を出して楽しんでいたのがとてもうれしかったです。
- ・ このような話を聴く機会がめったになかったので、いい経験となりました。



★ 子育て支援「あさひの輪」より ★

「あさひあったかまちづくり計画をすすめよう会」の子育て部会が中心となり、旭区で活動する様々な子育て支援ボランティアグループ、子育てサークル、子育て支援に関わる地域委員の方々がつながって大きな輪を作ることになり、昨年11月に「大きくつながろう！いきいき子育て支援の輪」というイベントを開催しました。その後、イベント開催の企画運営関係者が中心となり、区内の子育て活動の報告や意見交換などを行うことができるようになりました。

あさひ子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」を立ち上げてから、ずっと、区内に子育ての大きな輪を作りたいと願ってきました。旭区社会福祉協議会、旭区保健福祉センター、そして、「あさひあったかまちづくり計画をすすめよう会」と一緒になって大きな輪をつくることができ、子育てママやボランティアの先輩母達の思いが一つ叶ったこととなります。子育てが楽しい、子どもたちがいきいきと育つ町を目指して大きな輪の活動に参加していきたいと思えます。

★ ほうぷスタッフの子育てコラム★ ～子育て中のほうぷスタッフの想い～

〈Puku ママ〉

私には2人の子供がいます。2歳6ヶ月の息子と5ヶ月の娘です。私は自分で言うのもなんですが本当に育児が得意ではありません。実際に上の子が生まれたとき、一年間は育児休業を取って、慣れない育児に悪戦苦闘していましたが、職場復帰と同時に保育所に預けることができ、正直ホッとしました。私にとって、子どもはかわいいことには変わりはないですが、仕事であくせく働いているほうが性に合っているからです。そして、保育所に預かってもらい、仕事・家事・送り迎えで毎日バタバタと過ぎていき、息子の保育所での様子もたいして気に留めることもなく一年あまりを過ごしました。

そんな生活からまた変化が訪れ、幸せにも再び妊娠、出産し、また育児休業を取ることになりました。今までの延長保育でのバタバタしたお迎えと違い、担任の先生に保育所での息子の様子を聞いたり、他の園児たちの様子を見たりする機会が増え、今まで忙しさにかまけて見ていなかった「私の育児」というものを考える時間が多くなりました。「なかなかおかずを飲み込めず、いつまでも口の中でもぐもぐしていましたよ」「みんながさっと着替えて席についてしまったく気にも留めず床に寝そべっていました」という先生方の報告の何気ない言葉に一喜一憂したり、お友達を叩いたり、つばを吐いたりする行動が気になっては怒ったり、また保育所に行かず、何人もの子どもたちを家庭で世話している母親たちを街で見かければ、家族や保育所に頼りきっている自分が未熟者を感じて落ち込んだり、慢性的に育児に対するいろいろな不安が付きまとっている自分がいました。

しかし、そんないろいろな不安に光をさしてくれるのもまた育児でした。最近、こんなことがありました。夕食後の後片付けをしていたとき、私は誤って夫の目の前で転倒してしまいました。すると息子は一目散に夫の前に来て夫をつきとばしたのです。どうやら夫が私をつきとばしたと思ったらいいのです。その息子の行為は決して良いこととはいえませんが、私は私をこんなに無心に大切に思ってくれるこの小さな存在を限りなく愛おしく思えました。

私には仕事を通じての夢があります。その夢に向かって毎日勉強しようと思っただけのもの、睡魔に勝てず何もせず寝てしまうことがほとんどです。でも、最近はそんなとき、こう考えるようにしています。ひとつの夢は、今は休憩中だけど、もう一つの夢である「この小さい宝物たちと過ごし、違った世界を見ていろいろな思いをして人としての幅を広げたい」という夢は現在進行形なんだ」って。

下手は下手なりに周りがサポートしてくれるようにできているようです。自分ひとりで無理なら誰かの助けを借りればいい、そう開きなおりながら、時には落ち込んだりもするけれど、何とか毎日がんばっているところです。

2008年4月1日

娘に教えられ

生き直した私

私は「将来、なりたいもの」を見つけられず、将来の夢を描くことができない子ども時代を過ごした。でも、「共働き」の家庭に育ったからか、結婚、出産後も仕事があったり、いと漠然と思っていた。就職した情報処

育児に専念する毎日が始まった。受験戦争の中で育ち成人後は生産性・効率性を追い求めて働き、築き上げてきた「できること・はやいことが良いこと」という価値観が、娘によって打ち砕かれた。

出産後、社会福祉を学び、社会福祉士の資格を取った。本心に「やりたいこと」を見つけたのは30歳代後半。地域の中でさまざまな人と出会い、つながって地域福祉の活動をしてきた。

2004年春、福祉や教育、医療の専門職である友人たちと、誰もがありのままを受け入れられ、一人の人間として尊重され、当たり前前に暮らすことのできる地域にしたいと、NPO法人「地域生活サポートネットワーク」を設立した。娘に多くのことを気づかされてきた。かけがえのない「いのち」の温かさや重さ。人生の主人公は「わたし」であること。娘とともに自分が「育ち直し」をしている。支えられているのは親の方だ。娘との暮らしを楽しみながら、今日も草の根の活動をしている。

(ほづぶ代表理事 向井裕子)

2008年5月20日

人とつながり

元気になる

地方出身で、近所に親せきも友人もいなかった私は14年前、障害をもつ娘を出産し仕事を辞めたことで、会社という唯一の社会とのつながりが切れて、孤立しました。夫は深夜帰宅の会社員。娘と二人の散歩や通院の日々。大きな孤独感に襲われま

もたちの中で育ってほしいと考えました。「重度障害児」とされる娘を受け入れてくれるだろうか、という不安と、自分が楽をしようとしているのではないか、という後ろめたさを抱えながら、近くの公立保育所を訪ねました。

「子どもは小さなうちの方が、障害にとらわれないで娘さん自身を見てくれると思いますよ」「娘さんを預けることで、親子がよい状態で向き合えるようになれば、それは娘さんにとってもいいこと」「これから一緒にがんばろうね」。所長さんの言葉で、地域への一歩を踏み出すことができました。

「ひとりぼっちじゃない」と感じると心が温かくなりました。人は人とつながることです。人は人とつながることです。元気になります。それは障害児を育てる家庭に限ったことではありません。自らの体験から、孤立させない地域づくりの大切さを痛感し、2003年秋、子育てサークルなど12団体で、地域に子育てネットワークを立ち上げました。

(ほづぶ代表理事 向井裕子)

2008年7月1日

違い認め合い

共に高め合う

大阪市では、多くの障害をもつ子どもが保育所に通い、障害をもたない子どもたちと共に育ちあっている。重度の障害をもつ私の娘も、3歳から3年間、通った。

友達^{ホト}の真似をして、嫌なことも頑張るようになった。修了近くに、保育士さんから聞いた。最初、他の子どもと違う娘と、どのように向き合えばいいのかと職員たちは悩んだ。話し合いを重ね、「障害をもつ子どもとどう向き合うか」ではなく、「違いを認め合い、一人ひとりを大切に保育」を再確認し、「一人ひとりに向き合う保育」を目指してきたという。

大阪市内では、多くの障害をもつ子どもが保育所に通い、障害をもたない子どもたちと共に育ちあっている。重度の障害をもつ私の娘も、3歳から3年間、通った。

(ほづぶ代表理事 向井裕子)

旭区で活動しているセルフヘルプグループの紹介

医療的ケアの必要な子どもの家族の会 **こころ**

平成15年2月に医療的ケアの必要な子どもたちが地域で生活していくためにはどうしていけばよいかと、旭区で暮らしている医療的ケアの必要な子どものお母さんたちが集まり立ち上げました。現在、旭区とその近隣区で暮らしている9家族が参加しています。

医療的ケアの必要な子どもの多くは、24時間の介護が必要で、家族の担う役割が大きく、家族の慢性的な睡眠不足も大きな課題です。メンバーたちは、訪問看護やヘルパーなど、制度の利用もしていますが、それだけでは、十分ではありません。「こんなサービスの情報があつたら悩まずにすんだのに・・・」（例えば福祉タクシーなど）と、実際に利用した時の状況や感想も含めて、情報交換や意見交換をしています。課題は山のようにありますが、そんな現状を少しでも解決したいと考えています。

『こころ』の活動に興味を持たれた方は、ぜひ定例会にご参加ください。

定例会 毎月第2金曜日10時半～ 旭区在宅サービスセンター

(変更になる場合がありますので、参加希望の方は、ほうぷまでご連絡ください)

脳血管障害者の会 **あさひの会**

脳血管疾患の後遺症を抱える当事者の会です。平成14年から、同じ体験をした者同士が集まり、思いを分かち合い、共通の課題を語り合い、情報交換をしています。

1人で、悩んだり、がんばったりしていらっしやいませんか？仲間と出会い、語り合いたい方、ご参加ください。仲間の中でホッできる場づくりをしたいと思いますので、言葉が不自由な方もどうぞおいでください。ご家族の方も一緒にいらしてください。月に1回、集まっていろいろな話をしたり、花見や親睦会をしたりしています。

ご参加をお待ちしております。

定例会 毎月第2月曜日午後2時～4時 旭区在宅サービスセンター

(会場の都合により変更になる場合があります。ほうぷまでお問い合わせください)

今月の定例会は、8月18日(第3月曜日)です。

不登校児の親の会 **サークル虹**

不登校の子ども親達が、ひとりで悩まないでお互いに支えあおうと平成13年に立ち上げました。不登校になっている子どもを育てている親達と過去同じ体験をした親達、そして、支援者がメンバーです。

月1回「サークル虹のつどい」を開催しています。一人で悩まず、みんなで話し合い情報交換しながら、子どもが育つのをいっしょに見守りませんか？

また、勉強会の開催や学校・地域との連携を図る活動をしています。

定例会(サークル虹のつどい) 毎月第3金曜日午後7時～8時半 旭子ども子育てプラザ

(会場の都合により変更になる場合があります。ほうぷまでお問い合わせください)